

本願力

横浜別院だより



【小さき声のカノン上映&鎌仲ひとみ監督トーク会】

三寒四温とは春先の頃である
 と思えるが、今年の春からの気
 候は日替わりの冬と夏、桜が咲
 いても又逆戻り、こんな異常気
 象が常態化して、私共を落ち着
 けなくしている。ともかく風薫
 る季節がまちどうしい。
 私どもの社会生活環境の動向
 に目を向けてみれば「萎縮と混
 沌」この言葉が貧困な想像力か
 ら浮かんできた。
 萎縮は物理的には単に縮んだ
 りしなびたりして小さくなるこ
 とだが、精神的には恐れかしこ
 まって気持ちが小さくなること
 らしくて、今の日本人の多くが
 陥っている病を表すのに相応し
 いとの指摘もあって妙に納得す
 るのである。萎縮する理由とし
 ては、深々とした自信喪失で現
 在がどういう時代かが判らず、
 経験を頼りに今まで歩んできた
 道筋をそのまま進めないことが
 はつきりして、かといって、ど

雑感 四

輪番 坂田 智亮

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
 横浜市港南区日野一十一-八

FAXTEL
 (045) 841-3434
 (045) 841-3428
<http://www.yokohama-ohtani.com>

う進むのか皆目わからないまま茫然自失と
 言った具合である。小生、突然横浜に足を
 踏みいれて丸三年、この話がどうも今の私
 にピタッと嵌まるのである。恥ずかしいこ
 とだが、ドキドキワクワク感がもてず、さ
 まざま新しい出会いの準備とその瞬間も
 遠く、また、この地における宗教的生活感
 覚が実感できない苛立ちの中で、率直にこ
 の身が馴染めていないことなどの思いがこ
 のところ過(よぎ)っている。

また一方、最近よくカオス(混沌・無秩
 序)と言う表現を耳にすることがある。入
 り混じってしまつて区別がつかずはつきり
 しないという意味で使われている。

この時代社会には、生活を支える経済を
 始めとする知恵を駆使したあらゆる現象に
 格差が顕著に出現してきている。価値観は
 多様化して、便利さを追求する科学技術の
 進歩、AI等の登場、これも利用頻度と思
 患の有無によって随分と落差が生じている。
 これらはあくまで人間のあくなき興味・関
 心事の延長と幸福追求の手段の結果であつ
 て、それ自身が人生の目的達成ではあるま
 い。科学と人間の領域に境界もなく、独り
 の人間は、人生の意義と着地点を喪失して、
 ただあてもなく彷徨い、生けるものへの感
 覚を見失つてしまう。まさにあらゆるもの
 が「混沌」とした時代である。

過日、世界遺産であるノートルダム寺院
 の火災という事実に世界中の人々は落胆し
 悲しみに包まれた。いち早く多額の寄付を
 申し出た富ある人、また、悲しむことを通
 していのちの深淵へ誘われた人たち、民族

宗教の違いはあるにせよ、この現実によって人間の悲しみを共有したことは間違いない。人は存在の奥に誰しも人間であることへの祈り「ねがい」が胎動していて、その発露の瞬間を待ち続けているのかもしれない。

着実に広がる萎縮と混沌を誰しもが超えて、人と人が出逢い、そして、繋がる社会の実現を願っているはずである。自らも人生を振り返り、また一步、朋なる大地を希求し続けて行きたく思う。

今こそ、人間回復の道が俟たれ要請されているように思えてならない。昨今、別院・教化センターも、その歩みを紡ぎ続ける機能を保持していかねばならない。

『小さき声のカノン』上映& 鎌仲監督トーク会 (三月十日)

今年で福島原発事故から七年が経ちました。

放射能汚染によって、帰還困難区域が設定され、今も故郷に帰れず、避難生活をされている方がたくさんおられます。その一方で、避難指示解除準備区域から避難指示の解除がなされた区域が徐々に行なわれていきます。しかしながら、被ばくした方々の悲しみは癒されておらず、



→ 鎌仲ひとみ監督

原子力事故において、拡散された放射能の危機感はいまだに風化しつつあります。今回、原発問題を考え直すきっかけとして、『小さき声のカノン』を上映することにしました。「保養」をテーマとして、日本とベラルーシでの活動を収めたドキュメンタリー映画でした。「保養」とは、子どもたちが健康を取り戻すための合宿のようなもので、映画では自然豊かな北海道で子ども達が集団生活を行ない、放射性物質を減らしていくような取り組みがなされています。上映後、鎌仲監督のお話から、たくさん質問がなされ、丁寧に受け答えいただきました。(文責 家本)

ナターシャ・グジーコンサート

始まって一秒も経たなかったかもしれない。「きれいな音色」と直感的に思い感動するまでに。

四月十四日(日) 夕刻の別院本堂に、ウクライナの歌姫とも言われる、歌手ナター



→ ナターシャ・グジーさん

シャ・グジーさんが立った。すらりと伸びた長身。その口からは水晶の歌声と形容される、美しく透明な声が発せられ、私たち聴衆の耳に届く。そして手で奏でるのは、バンドウーラというウクレイナの民族楽器である。八キロもの重量、六十三本の弦からなる。この楽器の音色のなんときれいなことか。日本の曲も織り交ぜて、あつという間の一時間。最後に会場一体となって、唱歌「故郷(ふるさと)」を歌う。故郷に戻れぬ人とともに歌う「故郷」。そう。彼女は六歳のときに、チエルノブイリ原発の事故に遭遇。わずか三・五キロの近距離で被曝する。街は土に埋められ、地図からも消されたという。

彼女の美声と、背景にある悲しみ。当日おいでになれなかった方は是非何かの機会に。必聴である。

(文責 企画広報部 伊藤大信)

別院役員就任のお知らせ

次のとおり新しく役員に就任されました。

二〇一九年四月一日付

【責任役員】

渡辺 賢 (横浜組光源寺住職)

西谷内力世 (別院門徒)

【院議会議員】

本多康興 (横浜組蓮光寺住職)

岩田隼子 (別院門徒)

【監事】

本多 和 (川崎組稱名寺住職)

以上

【神奈川県四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】


三浦組 二〇一九年度寺子屋

講師 伊東恵深師（同朋大学准教授）

三浦組では今年度第二回目の「寺子屋」が三月一日に開催されました。会場は横須賀市西来寺で第一回と同じように五十名を超える参加者で本堂はいっぱいとなりました。講師は、伊東恵深師で、自己紹介をしながら、「みんなと同じは○○、みんなと違うと□□。この○○と□□に入る言葉はなんでしょうか?」というクイズの様な形から始まりました。○○〇〇不満、□□〇〇不安が入ります。「人はどうなりや満足?」と投げかけられ、参加者から「なるほどなあ」と頷かされていました。「聴」と「聞」の違いについて、「聴はきく。聞はきこえる。例えるなら、聴診器、聴講生は聴。香道では、嗅ぐと言わず、聞くという。つまり聴とは、聞く者が自ら聞いていこうとする様を表し、聞とは、聞く者に自ずと聞こえてくる様を表している。」と教えていただきました。「聴聞」という言葉には、仏法を両方から「きく」深い意味があります。

(文責家本)

→伊東恵深 先生



→伊東恵深 先生

横浜組 門徒研修会（四月十一日）

講師 武田定光師（東京六組因速寺住職）

今年度第二回目の横浜組門徒研修会の講師は、武田定光師でした。教化テーマ「真宗の救いとは、〈一人一世界〉を得る」について、「真宗の救いとは無意味からの解放である。人間は苦しみの意味が分かれば、それに耐えることができる。なぜ死ぬのに生きるのかという問いに対する答えを得るのが救いである。欲望の達成が救いとはならない。欲望の充実は一時しのぎだからです。親鸞は高僧和讃の中で、本願力にあれば、むなしくすぎるひとぞなき」とおっしゃっている。人生において、なぜ生きるのかという意味を見い出す。まさにこの点

へ一人一世界」とは、この世に私一人しか生きていないということであり、つまり一人に一つの世界がある。」武田先生のお話を聞いてみると、沸々と身体が熱くなり、元気が湧いてくるような気がしました。

(文責家本)

→ 研修会の様子



→ 研修会の様子

『神奈川四ヶ組行事予定表』

《横濱組》

【横浜組声明儀式研修会】

【日時】五月二十日(月)午後一時半～

【会場】 本願寺横浜別院

【横浜組育成員研修会】

【日時】六月六日（木）午前十時半～

(総合研究大学院大学准教授)

【会場】 本願寺横浜別院

《神奈川四ヶ組》

【神奈川ブロック聖典学習会】

〔第三十回〕

【日時】五月十七日（金）

【講師】 午前十時四十五分、午後四時
三木彰円 師（大谷大学教授）

【學習聖典】『一念多念文意』

【参加費】 千円 ※当日受付

【会場】 本願寺横浜別院

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 —

2019年5月～6月

～どなたもご自由にお参りください～

永代経法要 午後1時30分より

5月28日（火）・29日（水）

【法話】海 法龍 師（横須賀市長願寺住職）

この法要は、私までのいのちを届けてくださった先輩・先達に想いを馳せ、そこに相続されてきた本願のみ教えを聞きひらき、私の人生を問い直す大切な御仏事であります。

末法濁世の様相を呈して混迷を深めていく現代社会にあって、いよいよ真実の教法に照らされて生きることが願われるのであります。どうぞご参詣ください。

ご門徒さんのお宅に伺います！**法 務 ご 依 頼！！**

本願寺横浜別院では、ご門徒の皆様のご自宅へ伺い、春秋のお彼岸参りやお盆参り、祥月命日のお参り、月忌参り等、法務を勤めております。

初めての方も、まずは遠慮なく別院までご連絡をいただき、お気軽にご相談ください。

【電話】045-841-3434

【メール】yokobetsu@silk.ocn.ne.jp

定例法話 午後1時30分より

5月9日（木）川崎組 称名寺 本多 暁 師

6月9日（日）三浦組 浄栄寺 蒲 義道 師

6月28日（金）別院 輪 番 坂田 智亮 師

※5月28日の定例法話は休みです。

横浜別院同朋の会・おみがき会

6月15日（土）午前10時30分より

本堂の仏具を磨きます。軽食あり。

※古くなったタオルをお持ちください。

※5月18日の同朋の会は休みです。

《別院声明儀式研修会のご案内》

《2019年度第1回声明儀式研修会》

【日時】6月18日（火）

午後1時30分～4時30分

【講師】友松雅英 師（東京2組西岸寺住職）

【講題】「正信偈誦法作法について」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

《2019年度第2回声明儀式研修会》

【日時】10月3日（木）

午後1時30分～4時30分

【講師】友松雅英 師（東京2組西岸寺住職）

【講題】「別院報恩講習礼」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

編集後記

さて、待ち望んでいた桜もわずかに一週間程度で散り、季節が春から夏へと移行し始めました。穏やかな気候が保たれにくいのが現代の自然環境ではないのでしょうか。紙面でお伝えしました映画上映&監督トーク会とコンサートはおかげ様で多くの方にご参加いただきました。両方とも「原発」を主軸において企画しましたが、改めて「原発」を取り上げる難しさを感じました。やはり、我が身の上の問題と実感が湧かないと、対岸の火事ではないでしょうか。そういう私はどうなのだろうか。と、自問自答しております。天皇陛下即位、元号「令和」、新紙幣発行など新しい物づくしですが、だからこそ、これまで積み上げてきたことを大事にしたいですね。

(家本)

